

特集 Special edition

公共施設 徹底議論！

令和4年度は75億円程度が公共施設関係の費用として使われています。の中には、新しく建てられる施設の費用や、今ある施設の維持管理費用、使われなくなった施設の撤去の費用も含まれています。市民の財産である公共施設について、市議会がどのように考え、提案をしているのか、今回は「霧島市の公共施設のあり方」について特集します。



医師会医療センター 令和6年秋完成へ



(仮称) 霧島市クリーンセンター 令和8年2月完成へ

新しい公共施設整備

霧島市議会では、新たな公共施設を検討する際に、必要に応じて「調査特別委員会」を設置してきました。今後、整備予定の施設について紹介します。

(仮称) 霧島市クリーンセンター

平成15年に稼働した現在の施設は老朽化が進み、今後も使用するためには多額の費用が予測されるため、平成24年からの検討を経て、令和8年の完成を目指して整備が進められています。市議会では、令和3年6月定例会で、特別委員会を設置し、市に対して提言を行いました。

この提言を受けて、新施設は1日の処理能力が140トンの焼却処理設備を有し、一般廃棄物を、安全で安定的かつ効率的に処理するほか、ごみ焼却に伴って生じる熱を利用して発電を行い、施設全体の電気を賄うとともに、余剰

分は電力会社に売電をする。とでエネルギーの有効利用を図ります。さらに環境学習の場を創生、地域の4RやSDGへの取組を発信する拠点として、開放的で市民に愛される施設を目指します。

この施設は、霧島市で初めてBBO方式が採用されました。設計 (Design)・施工 (Build)・運営 (Operate) を民間事業者が一括して行い、民間事業者の経営能力及び技術的能力を活用して整備・運営されます。

特別委員会からの提言内容 (当時)

- ①ごみ減量化対策を推進し、効率運用を図ること。
- ②ゼロカーボンシティ2025の取組を明確に表明すること。
- ③資源循環・環境教育・環境保全のソフト事業を充実し、地球温暖化防止につながる低炭素社会に取組み推進すること。

医師会医療センター

施設の老朽化や狭あい化により、プライバシーへの配慮や、多様なニーズへの対応が難しいことから、令和6年の完成を目指し、完全個室の病院建設が進められています。平成31年3月定例会で特別委員会を設置し、審査したほか、文教厚生常任委員会でも視察に行くなど、市民のための施設整備が行われるように随時提言をしています。

特別委員会からの提言内容 (当時)

- ①概算とはいえ、近年の公立病院の建設費と比較して突出して高額である。既存施設の活用や整備手法なども十分に検討し、事業費の抑制に努めること。
- ②整備計画においては、その病棟・病床に基づいた多様な病室の整備と患者同士が談笑できる快適な憩いのスペース等の配置も

検討すること。

- ③新設される診療科に向けた医師や看護師確保の計画的準備と処遇改善など職場環境の充実を図ること。

保健センターの統合

国分シビックセンターの西駐車場内に、令和6年度着工を予定している(仮称)霧島市総合保健センターは、老朽化している国分保健センターとすこやか保健センターを集約複合化した施設となる予定です。



建て替えが予定されている国分保健センター